

【第6会場：4S03教室（16）】

団体名：株式会社きぼう国際外語学院

沿革

- 平成13年12月 学校法人ティビィシィ学院より出資し、「就学生」受け入れ日本語学校として群馬県前橋市にて開校
- 平成15年4月 財団法人日本語教育振興協会（日振協）へ加盟，東南アジアの就学生受け入れ開始
- 平成16年7月 JITCO（現 公益財団法人 国際研修協力機構）認定日本語教育機関となり，前橋・小山・宇都宮校で外国人研修生向け日本語教育開始
- 平成20年3月 前橋校閉鎖に伴い，就学生受け入れ休止，同時に日振協を退会
- 平成20年4月 本校を栃木県小山市へ移転し，外国人研修生向け日本語教育に特化
- 平成22年7月 EPAに基づく外国人介護研修生の為の介護福祉士受験対策講座（主に日本語）を開始
- 平成22年8月 外国人「定住者」向けビジネススキルアップ（職業訓練）講座を開講
- 平成22年10月 webを利用した日本語能力測定システム（にほんごはかるくん）運用開始
- 平成24年8月 文化庁委託事業 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 プログラムB受託
- 平成25年8月 文化庁委託事業 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 プログラムB受託
- 平成26年1月 会社名を「株式会社きぼう国際外語学院」に変更
- 平成26年4月 文化庁委託事業 「生活者としての外国人」のための日本語教育事業プログラムB受託



学校概要

現在，この学校に留学生はひとりもいません。当校は，技能実習生への日本語教育を中心とした日本語学校です。毎年約1,000名の実習生が当校で日本語を学びます。2014年8月現在，当校で学んだ実習生は8,000名強となりました。その他にも，上記の通り様々な日本語教育を実践しています。EPA 介護福祉士候補生に対する介護福祉士国家試験対策講座，定住者向けの職業訓練講座，その他生活する外国人向けのプライベート日本語レッスンなどです。

今までの日本語教育の枠組みでは対応できなかった「日本語学習希望者」の「きぼう」をかなえるべく，学習者の希望にできるだけ合わせた日本語教育を行っています。

「ここだからできる，ここでしかできない」をモットーに，実習生，地域の方々への日本語サポートをしています。

文化庁事業に取り組むにあたって

「なぜ，株式会社が文化庁事業に取り組んでいるのか」とよく聞かれます。そのときは，「『企業だからできること』＝『ここだからできる』ことがないかということにチャレンジしています」と答えます。「日本語教育」を「企業」の視点で考え，それをいろいろな立場の方と共有することこそ，これからの日本社会での「連携」だと考えています。外国人にとっての日本語教育という視点だけではなく，日本語教師にとっての日本語教育，日本社会にとっての日本語教育をこの事業を通して考えていきたいと思っています。

事業実施概要

事業名称	「やさしい日本語生活情報」発信と「やさしい日本語生活情報」を使った日本語教育体制整備事業			
地域の課題	栃木県内には3万人弱の外国籍の方が在住しており、その約半数が永住、日本人配偶者、定住者である。つまり、長く日本に住んでいる、または住む予定の方である。そのため、日本人と同じように、働き、子育てをし、生活をしている。そういった方たちはなかなか日本語学習の時間を確保することが難しい。しかし、日本語学習の重要性は理解している。自分の生活スタイルの中で、好きな時間に、「今」自分に必要なテーマで学びたい学習者への学習の場の提供、そして、そういった外国人が地域に存在することを多くの人が知り、外国人の社会参加を促すような地域の連携が課題である。			
事業の目的	本事業では、地域の外国人が、日本語を学びきっかけ、場所を得、日本の社会に積極的に参加できること、またそのために日本人にも外国人の存在を理解してもらうことを目的とした。			
事業内容	取組1		取組2	
	名称	「やさしい日本語生活情報」提供番組の作成と発信	名称	「やさしい日本語生活情報」を使った日本語教室
	内容	日本語教師と外国人、そしてある分野の専門家の3人で、日頃外国人が疑問に思っていることをテーマに話し、その話し合いの様子をFM 栃木で放送する。	内容	取組1で放送したテーマについて、専門家と日本語教師と一緒に学び、そこから日本語学習をする。専門家の話を日本語教師がやさしい日本語で解説したり、外国人からの質問も手助けする。
	対象	ラジオの聴取者、出演外国人	対象	栃木県に住む外国人
	時間	放送1回10分×6回(全1時間)	時間	1回 3時間× 回(全14時間)
	人数	ラジオ出演12人、会議出席29人	人数	総数171人
	取組3			
	名称	「やさしい日本語生活情報」をもとにした日本語教育シンポジウム		
	内容	「やさしい日本語」や「日本語教育」、「生活者としての外国人」などをテーマにシンポジウムを行う。		
	対象	栃木県民		
時間	3時間			
人数	13人			
連携体制	24年度に引き続き、FM 栃木と連携した。その他、栃木県の観光担当職員、栃木県ボランティアセンター、日本語学校、人材派遣会社、葬儀関連会社、生命保険会社など普段外国人がなかなか接することのできない人たちと連携。			
成果と課題	外国人が「参加したい」と思うテーマの選定は難しい。必要なことだとわかっているにもかかわらず、他の予定をキャンセルしてまで参加する外国人は少ない。継続的な教室ではなく、単発的な教室のため、広報に苦戦している。テーマが違って参加してくれる方もいるので、「どんな教室が理想なのか」ということが課題である。成果としては、日本人に外国人の存在、「やさしい日本語」について知ってもらえたことである。日本人への啓蒙活動も続けたい。			
発表者から一言	日本語教育機関として、プロの日本語教師として、地域と何ができるのかということに参加して下さった方と対話してみたいです。また、「やさしい日本語」を日本人に広げることについて共有したいと思っています！ ラジオ放送ですが、26年度も新しい番組を作り、ただいま放送中です。ラジオ番組について、アイデアがあればぜひ教えていただきたいと思っています！！			